

緩やかな履修モデル

経済学部で学ぶために

経済学・経営学は、企業や家計を含む社会の課題に答えようとするものです。それぞれの時代の様々な課題への対応を積み重ね、今日あるようなディシプリン（確立した学問領域）として成立しました。それらは、時代を超えて普遍的に適用されるものであると同時に、新たな時代の新たな課題に応えるべく応用されるものです。各分野の古典が常に輝きを失わないだけでなく、新しい時代に即した新しい分野も生まれ続けています。

みなさんが本学で学ぶ経済学・経営学は、そうした多様な分野を総合したもののエッセンスであり、カリキュラムとしてまとめたものが『履修の手引き』に示してあります。卒業するために『履修の手引き』に沿って履修することもできます。経済学・経営学が一定の課題に応えるものであるように、自分の課題に応えるものとして履修することもできます。むしろその方が重要かもしれません。

緩やかな履修モデルの使い方

この『緩やかな履修モデル』は自分の課題を「学びの目的」として設定し、この目的を達成するため、カリキュラムの中の科目を意図的・選択的に学ぶことのメリットを示し、ガイドとなるものです。

「イメージ図」は、各学科の科目がどのような意図で科目群に分類されているかを示しています。これは『履修の手引き』にある「カリキュラム表」の科目群に対応しています。これを課題設定の参考にして、自分の課題や目標を設定し、表の最右欄にある「学びの目的」を記入します。

次に、「私の履修計画」の空欄に自分の履修計画を記入します。最右欄にイメージ図で設定した「学びの目的」を記入した後、科目群の中からそれに適う科目を年次ごとに記入してください。履修モデルのサンプル「将来を見据えた履修計画の例」を参考にしてください。

「学びの目的」は、学問的な関心からキャリア的な関心まで様々で、定めるのは難しいでしょう。自分なりの履修計画を考えながら、相談担当の先生や受講している科目の先生に相談してください。

経済学・経営学を4年間かけて学ぶことで、自分の「学びの目的」について理解し、自信を持って話せるようになれば、これに勝つことはないと思います。目標達成やモチベーションを高めるため、この履修モデルを是非活用してください。

履修モデル作成の考え方

1年生の前期は、一般教育科目と専門教育科目の必修科目を中心に履修し、大学での学びに慣れましょう。この期間は履修モデルをあまり意識しなくても大丈夫です。1年生の後期からは、履修モデルを活用してください。自分の問題関心や専門志向が明確なら、今後の学びの見通しを立てるのに履修モデルは役立ちます。明確でない場合も、今後どんなことが学べるのか、イメージ作りに履修モデルを利用できます。

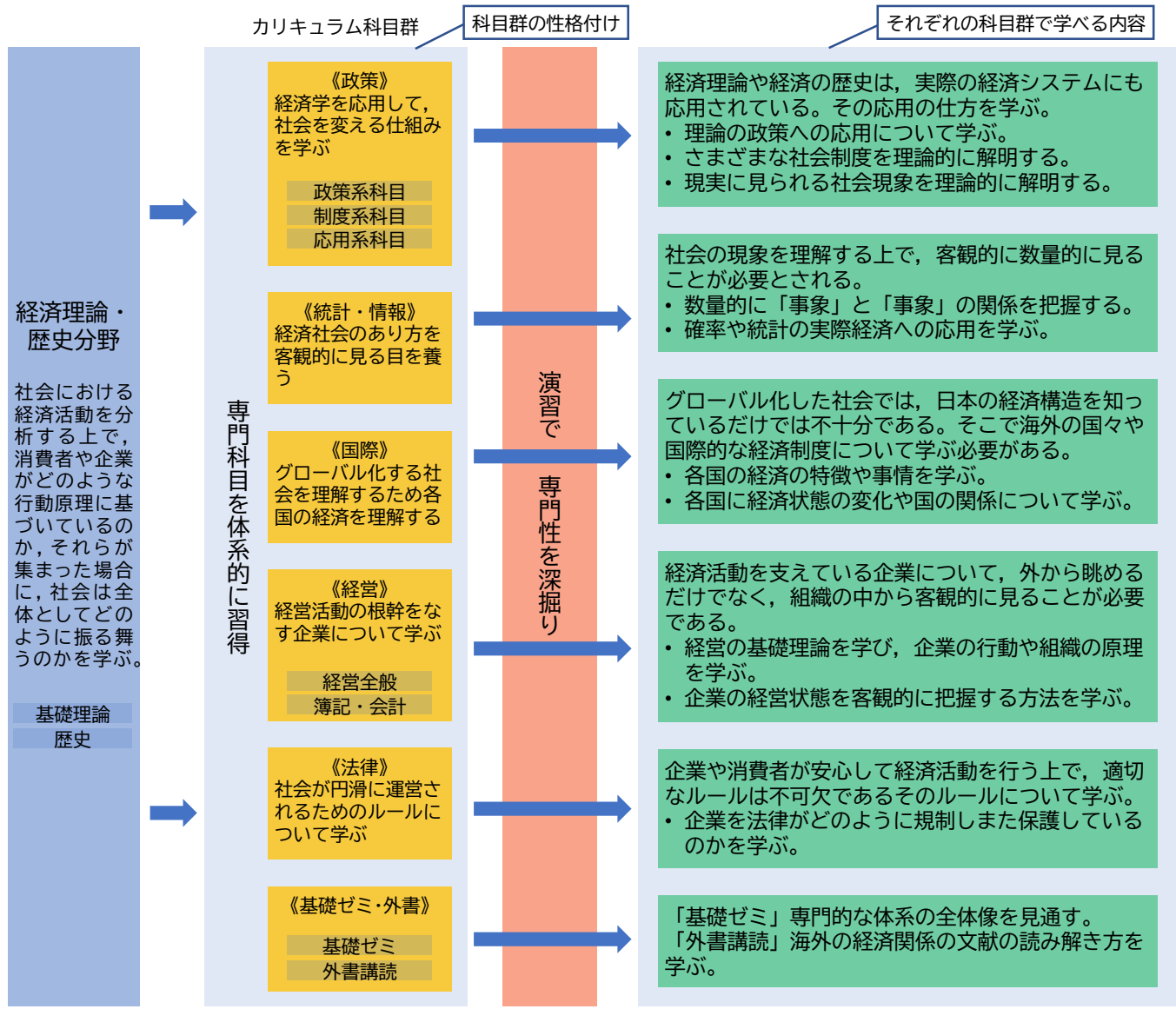
2年生になると履修できる専門教育科目が増えてきます。様々な科目が関連し合いますので、どの科目も丁寧に学んでほしいところです。中でも自分の課題設定の核になる科目はなにか、意識してみるとよいでしょう。その核を中心に履修する科目の配置や方向性が見えてきます。また、3年生から履修する演習Ⅰ（ゼミ）は、みなさんの研究の方向性をかなり特定することになります。どの演習（ゼミ）を選ぶか決めるためにも、2年生のうちに履修モデルや先生の助言を活用してください。

3年生になると、基礎的な科目の履修からより応用的かつ専門的な科目の履修に移ります。同時に、選んだ演習（ゼミ）により、自分の研究分野が方向付けられてきます。演習のテーマに応じて、これまでに学んだこと、学んでいることを、履修モデルにあてはめながら、見直してください。演習（ゼミ）の学びを豊かにするとともに、自分の設定課題についていっそう体系的な見通しを立てることが期待できます。

4年生になると、多くの科目が履修済みとなっているはずですが、改めて自分が学んできたものを、自分自身の関心や問題意識を核に捉え直し、履修モデルによりその核が多様な科目によってどのように充実したものになっているのか、確認してください。取りこぼしている科目やさらに一歩踏み出すための科目をみつけて、履修してください。これまで学んできたことを適切かつ体系的に振り返ることで、クライマックスの卒業論文を充実したものとして完成させてください。

このように学年の進行に合わせて履修モデルを修正しながら利用してください。また、すでに学んだこと、その時々の問題関心や将来展望に応じて、自分だけの履修モデルとして修正してください。

緩やかな履修モデル イメージ図（経済学科）



学びの目的

【私の学びの目的】
【例】

- 消費者や企業と言った経済主体の行動原理を学び、それらが合わさったときに社会がどのように動いているのかがわかる。
- 実際に行われている政策や社会の制度が、理論によってどのように基礎づけられているのかがわかる。社会の構造をよく理解することが出来、ニュースなどがわかるようになる。
- グローバル化した社会で、国ごとの特徴を学び、また国際組織について理解することで、世界で起きている動きを把握することができる。

《将来の進路に備えて、重点的に取ろうと考えている科目》
【例】将来、自分の意見に説得力を持たせるために、エビデンス(根拠)に基づく推論の力を身につけたい。→《統計・情報》科目群

《演習を深めるため／卒業論文・卒業研究のために必要な科目》
【例】地域活性化について学びたい。については、地域の現状を知り、また地域活性化の重要なプレイヤーである金融機関について学びたい。→《政策》科目群

※自分で書き出してみよう。

今年度の相談担当教員名

※履修上の注意

- ・大学の4年間で、どんなことを学ぶのか、それぞれの学問体系を俯瞰して考えてみて下さい。
- ・今学期・今年度に履修予定の科目(群)で、どういったことを学ぶのか、考えて登録しましょう。それぞれの科目ごとの履修概要・目的は、シラバスに記載されています。必ず確認しましょう。

	1年次	2年次	3・4年次	学びの目的・将来の展望
私の履修計画 学ぶ目的や将来の展望を考えて、自身の履修計画を作りましょう				

※幅広い知識を修得していることも社会人として大切なことです。

関心・興味のある科目も加えて4年間で必要な単位数が取得できるように計画的に履修してください。

将来を見据えた履修計画の例（履修しておきたい科目の例）

	1年次	2年次	3・4年次	学びの目的・将来の展望
履修例1	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ	経済政策 財政学 文化経済学	地方財政論 公益事業論 地域経済論	地域・社会と深く関わることを目指したい (ex. 公務員、NPO等)
履修例2	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ	国際経済学A・B 中国経済論 ロシア経済論 世界経済論	開発経済論 中国の企業と経済※	世界と関わる仕事を目指したい (ex. 企業の海外営業など)
履修例3	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ	経済人口学※ 日本経済史 社会保障論 労働経済学	アジア経済史	社会の仕組みをしっかりと学びたい (ex. 教員など。あるいは仕事以外のボランティア活動など。)
履修例4	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ	計量経済学 経済統計学※	農業経済学 環境経済学 公益事業論	経済活動を具体的かつ客観的に分析したい (ex. 金融機関、シンクタンク等)
履修例5	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ 経営学総論Ⅰ・Ⅱ	金融論 中小企業論Ⅰ・Ⅱ	ファイナンス理論※	金融に関わる仕事を目指したい (ex. 金融機関等)

※閉講済みのため開講予定はありません

(2019年度以前入学用)

	1年次	2年次	3・4年次	学びの目的・将来の展望
私の履修計画 学ぶ目的や将来の展望を考えて、自身の履修計画を作りましょう				

※幅広い知識を修得していることも社会人として大切なことです。

関心・興味のある科目も加えて4年間で必要な単位数が取得できるように計画的に履修してください。

将来を見据えた履修計画の例（履修しておきたい科目の例）

	1年次	2年次	3・4年次	学びの目的・将来の展望
履修例1	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ	経済政策 財政学 文化経済学	地方財政論 地域経済論	地域・社会と深く関わることを目指したい (ex. 公務員、NPO等)
履修例2	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ	国際経済学A・B 中国経済論 ロシア経済論 世界経済論	開発経済論 中国の企業と経済※	世界と関わる仕事を目指したい (ex. 企業の海外営業など)
履修例3	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ	経済人口学※ 日本経済史 社会保障論 労働経済学	アジア経済史	社会の仕組みをしっかりと学びたい (ex. 教員など。あるいは仕事以外のボランティア活動など。)
履修例4	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ	計量経済学 経済統計学※	農業経済学 環境経済学	経済活動を具体的かつ客観的に分析したい (ex. 金融機関, シンクタンク等)
履修例5	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ 経営学総論Ⅰ・Ⅱ	金融論 中小企業論Ⅰ・Ⅱ	ファイナンス理論※	金融に関わる仕事を目指したい (ex. 金融機関等)

※閉講済みのため開講予定はありません

(2020年度入学用)

	1年次	2年次	3・4年次	学びの目的・将来の展望
私の履修計画 学ぶ目的や将来の展望を考えて、自身の履修計画を作りましょう				

※幅広い知識を修得していることも社会人として大切なことです。

関心・興味のある科目も加えて4年間で必要な単位数が取得できるように計画的に履修してください。

将来を見据えた履修計画の例（履修しておきたい科目の例）

	1年次	2年次	3・4年次	学びの目的・将来の展望
履修例1	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ	経済政策 財政学 文化経済学	地方財政論 地域経済論	地域・社会と深く関わることを目指したい (ex. 公務員、NPO等)
履修例2	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ	国際経済学A・B 中国経済論 ロシア経済論 世界経済論	開発経済論 中国の企業と経済※	世界と関わる仕事を目指したい (ex. 企業の海外営業など)
履修例3	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ	日本経済史 社会保障論 労働経済学	アジア経済史	社会の仕組みをしっかりと学びたい (ex. 教員など。あるいは仕事以外のボランティア活動など。)
履修例4	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ	計量経済学 経済統計学※	農業経済学 環境経済学	経済活動を具体的かつ客観的に分析したい (ex. 金融機関、シンクタンク等)
履修例5	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ 経営学総論Ⅰ・Ⅱ	金融論 中小企業論Ⅰ・Ⅱ	ファイナンス理論※	金融に関わる仕事を目指したい (ex. 金融機関等)

※閉講済みのため開講予定はありません

(2021年度入学用)

	1年次	2年次	3・4年次	学びの目的・将来の展望
私の履修計画 学ぶ目的や将来の展望を考えて、自身の履修計画を作りましょう				

※幅広い知識を修得していることも社会人として大切なことです。

関心・興味のある科目も加えて4年間で必要な単位数が取得できるように計画的に履修してください。

将来を見据えた履修計画の例（履修しておきたい科目の例）

	1年次	2年次	3・4年次	学びの目的・将来の展望
履修例1	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ	経済政策 財政学 文化経済学	地方財政論 地域経済論	地域・社会と深く関わることを目指したい (ex. 公務員、NPO等)
履修例2	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ	国際経済学A・B 中国経済論 ロシア経済論 世界経済論	開発経済論	世界と関わる仕事を目指したい (ex. 企業の海外営業など)
履修例3	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ	日本経済史 社会保障論 労働経済学	アジア経済史	社会の仕組みをしっかりと学びたい (ex. 教員など。あるいは仕事以外のボランティア活動など。)
履修例4	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ	計量経済学 経済統計学※	農業経済学 環境経済学	経済活動を具体的かつ客観的に分析したい (ex. 金融機関、シンクタンク等)
履修例5	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ 経営学総論Ⅰ・Ⅱ	金融論 中小企業論Ⅰ・Ⅱ	ファイナンス理論※	金融に関わる仕事を目指したい (ex. 金融機関等)

※閉講済みのため開講予定はありません

(2022年度入学用)

	1年次	2年次	3・4年次	学びの目的・将来の展望
私の履修計画 学ぶ目的や将来の展望を考えて、自身の履修計画を作りましょう				

※幅広い知識を修得していることも社会人として大切なことです。

関心・興味のある科目も加えて4年間で必要な単位数が取得できるように計画的に履修してください。

将来を見据えた履修計画の例（履修しておきたい科目の例）

	1年次	2年次	3・4年次	学びの目的・将来の展望
履修例1	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ	経済政策・文化経済学 財政学・公益事業論 地域マネジメント論	地方財政論 地域経済論	地域・社会と深く関わることを目指したい (ex. 公務員、NPO等)
履修例2	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ	国際経済学A・B 中国経済論 ロシア経済論 世界経済論	開発経済論	世界と関わる仕事を目指したい (ex. 企業の海外営業など)
履修例3	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ	日本経済史 社会保障論 労働経済学	アジア経済史	社会の仕組みをしっかりと学びたい (ex. 教員など。あるいは仕事以外のボランティア活動など。)
履修例4	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ	計量経済学 公益事業論	農業経済学 環境経済学	経済活動を具体的かつ客観的に分析したい (ex. 金融機関、シンクタンク等)
履修例5	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ 経営学総論Ⅰ・Ⅱ	金融論 中小企業論Ⅰ・Ⅱ	地域経済論 経営分析論 税務会計論	金融に関わる仕事を目指したい (ex. 金融機関等)

(2023年度以降入学用)